

第Ⅴ部 主要な労働安全衛生対策

ここでは、労働安全衛生法に基づく監督のほか、労働安全衛生局が具体的にどのような安全衛生対策を実行しているか、また、現在、関心が高い労働安全衛生マネジメントの状況について紹介するために、三つの例（①The Hazard Communication Standard (HCS)（危険有害性周知基準、②労働安全衛生マネジメントシステム及び③墜落防止キャンペーン）に対する取組みを紹介します。

1 The Hazard Communication Standard (HCS)（危険有害性周知基準）について

[資料出所] : [Hazard Communication - Overview | Occupational Safety and Health Administration \(osha.gov\)](https://www.osha.gov/hazcom)
<https://www.osha.gov/hazcom> (最終閲覧日 : 2023 年 4 月 20 日)

The standard that gave workers the right to know, now gives them the right to understand. The Hazard Communication Standard (HCS) is now aligned with the Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals (GHS). This update to the Hazard Communication Standard (HCS) will provide a common and coherent approach to classifying chemicals and communicating hazard information on labels and safety data sheets. This update will also help reduce trade barriers and result in productivity improvements for American businesses that regularly handle, store, and use hazardous chemicals while providing cost savings for American businesses that periodically update safety data sheets and labels for chemicals covered under the hazard communication standard.	労働者に「知る権利」を与えた基準が、今度は「理解する権利」を与える。 危険有害性周知基準（HCS）は、化学物質の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）と整合するようになりました。この危険有害性周知基準（HCS）の更新により、化学物質を分類し、ラベル及び安全データシートで危険有害性情報を伝えるための共通かつ首尾一貫したアプローチが提供されます。 また、この更新は、危険な化学物質を定期的に取り扱い、保管し、及び使用する米国企業の貿易障壁を減らし、生産性の向上をもたらすとともに、危険有害性周知基準の対象となる化学物質の安全データシート及びラベルを定期的に更新する米国企業にとってはコスト削減となるでしょう。
--	--

Hazard Communication Standard

In order to ensure chemical safety in the workplace, information about the identities and hazards of the chemicals must be available and understandable to workers. OSHA's Hazard Communication Standard (HCS) requires the development and dissemination of such information:

- Chemical manufacturers and importers are required to evaluate the hazards of the chemicals they produce or import, and prepare labels and safety data sheets to convey the hazard information to their downstream customers;
- All employers with hazardous chemicals in their workplaces must have labels and safety data sheets for their exposed workers, and train them to handle the chemicals appropriately.

Major changes to the Hazard Communication Standard

- **Hazard classification:** Provides specific criteria for classification of health and physical hazards, as well as classification of mixtures.
- **Labels:** Chemical manufacturers and importers will be required to provide a label that includes a harmonized signal word, pictogram, and hazard statement for each

危険有害性周知基準

職場における化学物質の安全性を確保するためには、化学物質の性質及び危険性に関する情報を労働者が入手し、理解できるようにする必要があります。OSHAの危険有害性周知基準（HCS）は、このような情報の整備と普及を要求しています。

- 化学物質製造業者及び輸入業者は、製造又は輸入する化学物質の危険性を評価し、川下の顧客に危険性情報を周知するためのラベル及び安全データシートを作成することが義務付けられています；
- 職場に危険な化学物質があるすべての使用者は、ばく露される労働者のためにラベル及び安全データシートを用意し、化学物質を適切に取り扱うよう訓練する必要があります。

危険有害性周知基準の主な変更点

- 危険有害性の分類：健康及び物理的な危険性の分類並びに混合物の分類のための具体的な基準を提供する。
- ラベル：化学物質の製造者及び輸入者は、危険有害性の程度及び分類ごとに、調和された注意喚起語、絵表示及び危険有害性情報を含むラベルを提供することが要求されることになる。また、注意喚起文も記載する必要があります。

hazard class and category. Precautionary statements must also be provided. ▪ Safety Data Sheets: Will now have a specified 16-section format. ▪ Information and training: Employers are required to train workers on the new labels elements and safety data sheets format to facilitate recognition and understanding.	• 安全データシート： 16 セクションのフォーマットが指定されるようになる。 • 情報及び訓練： 使用者は、新しいラベルの要素及び安全データシートのフォーマットについて、認識及び理解を促進するために労働者を訓練することが要求されます。
---	---

2 労働安全衛生マネジメントシステムについて（最終閲覧日：2023 年 4 月 23 日）

労働安全衛生マネジメントシステムの策定に至る経緯を振り返ると、国際標準化機構（International Organization for Standardization、略称 ISO）は、1987 年に品質管理規格としての ISO9000 シリーズ、1996 年に環境管理規格としての ISO14000 シリーズを、それぞれ、制定しました。これらは、いずれも関連するイギリス規格（British Standards）が基になったものです。また、1996 年 5 月に、労働保健安全に関するイギリス規格として、BS8800 : Guide to occupational health and safety management systems が発行されました。これらの分野で国際標準化あるいはイギリス規格の制定が行われたことは、その後における労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）の国際標準化のきっかけとなったものです。ISO は、前述したように、1987 年に ISO9000 シリーズ（品質管理規格）を制定（1994 年、2000 年に改正）し、また、1996 年に ISO14000 シリーズ（環境管理規格）を制定しました。

その後、ISO は、自ら OSHMS の作成に取り組むべく、そのための技術委員会設置の可否に関し、ISO 加盟国に諮ったのですが、投票の結果、主として、既に ILO（国際労働機関）が OSHMS ガイドラインの策定に取り組んでいたことから、国際的なダブルスタンダード化を避けることが理由となって、否決され、ISO は、当面、OSHMS の国際規格化を断念することになりました。

結果的には、以前から OSHMS の作成に取り組んでいた ILO が、2001 年 6 月に理事会決定により、OSHMS に関するガイドライン（“Guidelines on occupational safety and health management systems ILO－OSH2001”）を制定しました。

その後、2013 年に、ISO では、労働安全衛生マネジメントシステム（以下 OSHMS）の ISO 規格化が加盟国により承認され、以後その開発作業（ISO45001（OHSMS））が行われ、その後かなり長い経過がありましたが、ISO は、2018 年 3 月に ISO45001（労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格）を制定し、公表しました。

一方、アメリカ規格協会（American National Standardization Institute；以下単に「ANSI」という。）は、このような国際的な動きに留意しながらも、1999 年に、OHSS(Occupational Health and Safety Systems)のアメリカ合衆国国内規格を策定するための正式委員会 ZD-10 を、全米産業衛生協会（American

Industrial Hygiene Association：略称 AIHA）を事務局として発足させました。この Z-10 委員会は、2001 年 2 月 7 日及び 8 日に、第 1 回会合を開催し、構成メンバーとしては、労働安全衛生局（OSHA：Occupational Safety and Health Administration）、労働界（AFL-CIO：The American Federation of Labor and Congress of Industrial Organizations）、使用者（アメリカ製造業協会：NAM; National Association of Manufacturers）、全米安全評議会（NSC：National Safety Council）等の専門団体も加わって、以後熱心に検討が進められて、最終案を 2005 年 5 月に取りまとめ、これを基に 2005 年 7 月 25 日に“American National Standard—Occupational Health and Safety Management Systems”を承認しました。その後、ANSI、AIHA 及び The American Society of Safety Engineers [ASSE]（アメリカ安全工学協会）は、ANSI の標準的な要求に基づく 5 年毎の見直しを行って、2012 年にこの 2005 年の規格を“ANSI/AIHA Z10-2012、Occupational Health and Safety Management Systems”として公表しました。その後この規格の事務局は、ASSE に移管され、また、ASSE はその名称が ASSP（The American Society of Safety Professionals [ASSP]）に変更されたので、この規格は、その後「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」と、また、現在では「ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems」と呼称されています。

この「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次の「英語原文—日本語仮訳」を次に掲げました。

なお、ISO は、2018 年 3 月に ISO45001 を公表しましたが、この公表に際しては、ANSI はその旨をそのホームページのウェブサイトで報じたものの、この ISO45001 をアメリカ合衆国国内規格として取り込むための作業に着手するような意思は示されておらず、上述した「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」は、（ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems：https://webstore.ansi.org/Standards/ASSE/ANSIASSPZ102019）として現在でも有効のようです（最終閲覧日：2023 年 4 月 20 日）。この ANSI/ASSP Z10.0-2019 - Occupational Health and Safety Management Systems は、有料で購入しないとその内容を見ることができません。そこで、2012 年当時公表されていた「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次のみを参考資料として次のとおり掲載することにした。

「ANSI/ASSP Z10-2012 (R2017)」の目次の「英語原文—日本語仮訳」

（資料出所：“ANSI / AIHA / ASSE, Z10-2012, An Overview of the Occupational Health & Safety Management Systems Standard ” By Fred A. Manuele（この論文は、現在でも The American Society of Safety Professionals のウェブサイト：https://aeasseincludes.assp.org/professionalsafety/pastissues/059/04/F3_Manuele_0414.pdf からダウンロードできます。最終閲覧日：2023 年 4 月 20 日）には著作権の保護に関する特別の表示がないので、その資料出所を明らかにしつつ、目次のみを抜粋して日本語仮訳を作成しました。）

Z10-2012 Table of Contents	Z10-2012 目次
Foreword	序文
1.0 Scope, Purpose & Application	1.0 適用範囲、目的及び適用
1.1 Scope	1.1 適用範囲

1.2 Purpose	1.2 目的
1.3 Application	1.3 適用
2.0 Definitions	2.0 定義
3.0 Management Leadership & Employee Participation	3.0 経営陣のリーダーシップ及び被雇用者の参加
3.1 Management Leadership	3.1 経営陣のリーダーシップ
3.1.1 Occupational Health and Safety Management System	3.1.1 労働安全衛生マネジメントシステム
3.1.2 Policy	3.1.2 政策
3.1.3 Responsibility and Authority	3.1.3 責任及び権限
3.2 Employee Participation	3.2 被雇用者の参加
4.0 Planning	4.0 計画
4.1 Initial and Ongoing Reviews	4.1 初期及び進行中の再評価
4.2 Assessment and Prioritization	4.2 評価及び優先順位付け
4.3 Objectives	4.3 目的
4.4 Implementation Plans and Allocation of Resources	4.4 実計画及び資源の割り当て
5.0 Implementation & Operation	5.0 実施及び運用
5.1 OHSMS Operational Elements	5.1 OHSMS の運用要素
5.1.1 Risk Assessment	5.1.1 リスク評価
5.1.2 Hierarchy of Controls	5.1.2 管理の階層
5.1.3 Design Review and Management of Change	5.1.3 設計の再評価及び変更の管理
5.1.4 Procurement	5.1.4 調達
5.1.5 Contractors	5.1.5 請負業者
5.1.6 Emergency Preparedness	5.1.6 緊急時の準備
5.2 Education, Training, Awareness and Competence	5.2 教育、訓練、認識及び能力
5.3 Communication	5.3 意思疎通
5.4 Document and Record Control Process	5.4 文書及び記録管理プロセス
6.0 Evaluation & Corrective Action	6.0 評価及び是正措置

6.1 Monitoring, Measurement and Assessment 6.2 Incident Investigation 6.3 Audits 6.4 Corrective and Preventive Actions 6.5 Feedback to the Planning Process 7.0 Management Review 7.1 Management Review Process 7.2 Management Review Outcomes and Follow Up Appendixes A) Policy Statements (Section 3.1.2) B) Roles and Responsibilities (Section 3.1.3) C) Encouraging Employee Participation (Section 3.2) D) Planning-Identification, Assessment and Prioritization (Section 4.0) E) Objectives/Implementation Plans (Section 4.3 and 4.4) F) Risk Assessment (Section 4.1 and 5.1.1) G) Hierarchy of Control (Section 5.1.2) H) Management of Change (Section 5.1.3) I) Procurement (Section 5.1.4) J) Contractor Safety and Health (Section 5.1.5) K) Incident Investigation Guidelines (Section 6.2) L) Audit (Section 6.3) M) Management Review Process (Section 7.1 and 7.2) N) Management System Standard Comparison (Introduction) O) Bibliography and References	6.1 監視、測定及び評価 6.2 事象の調査 6.3 監査 6.4 是正措置及び予防措置 6.5 計画プロセスへのフィードバック 7.0 管理の見直し 7.1 管理の見直しのプロセス 7.2 管理の見直し、その結果及びフォローアップ 付録 A) 政策の声明 (セクション 3.1.2) B) 役割及び責任 (セクション 3.1.3) C) 被雇用者の参加の奨励 (セクション 3.2) D) 計画・識別、評価、優先順位付け (セクション 4.0) E) 目的/実施計画 (セクション 4.3 及び 4.4) F) リスク評価 (セクション 4.1 及び 5.1.1) G) 管理の階層 (セクション 5.1.2) H) 変更の管理 (セクション 5.1.3) I) 調達 (セクション 5.1.4) J) 請負業者の安全及び健康 (セクション 5.1.5) K) 事象調査のガイドライン (セクション 6.2) L) 監査 (セクション 6.3) M) 管理の見直しプロセス (セクション 7.1 及び 7.2) N) 管理システム標準の比較 (はじめに) O) 参考資料
---	---

New appendixes in the 2012 version are: F) Risk Assessment; I) Procurement; J) Contractor Safety and Health; M) Management of Change; N) Management System Standard Comparison. While the appendixes are not part of the standard, they can be helpful to those with implementation responsibility.	2012 バージョンの新しい付録は次のとおりです。 F) リスク評価。 I) 調達; J) 請負業者の安全及び健康。 M) 管理変更の; N) 管理システム標準の比較 (資料作成者注: これらの付録は標準の一部ではなく、これらは、実施責任者の にとって助けとなるものです。)
--	---

3 労働安全衛生局の墜落防止キャンペーンについて

Welcome to OSHA's Fall Prevention Campaign  Photo by Koralie Hill	労働安全衛生局の墜落防止キャンペーンへようこそ
FALLS ARE THE LEADING CAUSE OF DEATH IN CONSTRUCTION. In 2020, there were 351 fatal falls to a lower level out of 1,008 construction fatalities (BLS data). These deaths are preventable. Since 2012, OSHA has partnered with the National Institute for Occupational	墜落は、建設業における死因の第一位です。2020 年に、建設業の死亡事故 1,008 件のうち、より低い高さへの墜落死亡事故は 351 件でした (BLS データ)。これらの死亡は予防可能です。 2012 年以来、OSHA は国立労働安全衛生研究所及び National Occupational

Safety and Health and National Occupational Research Agenda (NORA) - Construction Sector on the Fall Prevention Campaign to raise awareness among workers and employers about common fall hazards in construction, and how falls from ladders, scaffolds and roofs can be prevented. PLAN ahead to get the job done safely When working from heights, employers must plan projects to ensure that the job is done safely. Begin by deciding how the job will be done, what tasks will be involved, and what safety equipment may be needed to complete each task. When estimating the cost of a job, employers should include safety equipment, and plan to have all the necessary equipment and tools available at the construction site. For example, in a roofing job, think about all of the different fall hazards, such as holes or skylights and leading edges, then plan and select fall protection suitable to that work, such as personal fall arrest systems (PFAS). PROVIDE the right equipment Workers who are six feet or more above lower levels are at risk for serious injury or death if they should fall. To protect these workers, employers must provide fall protection and the right equipment for the job, including the right kinds of ladders, scaffolds, and safety gear. Use the right ladder or scaffold to get the job done safely. For roof work, if workers use personal fall arrest systems (PFAS), provide a harness for each worker who needs to tie off to the anchor. Make sure the PFAS fits, and regularly inspect it for safe use.	Research Agenda (NORA)（国家職業研究課題） - Construction Sector（建設部門）と協力して、建設業における一般的な墜落の危険性並びに梯子、足場及び屋根からの墜落をいかに防ぐかについて労働者及び使用者の意識を高めるために、墜落防止キャンペーンを展開しています。 安全に仕事をこなすために、事前に計画を立てる 高所作業を行う場合には、使用者は作業を安全に行うためにプロジェクトを計画する必要があります。まず、仕事の進め方、作業内容及び各作業に必要な安全装置を決めることから始めます。 仕事のコストを見積もる際に、使用者は安全装置を含めるべきであり、必要な設備及び道具をすべて建設現場で利用できるように計画します。例えば、屋根の工事では、穴又は天窓、先端開口部のような、さまざまな墜落の危険について考え、個人用墜落防止装置（PFAS）のような、その作業に適した墜落防止装置を計画し、及び選択します。 適切な機器を提供する。 下層から 6 フィート以上の高さにいる労働者は、万一墜落した場合、重傷を負ったり死亡したりする危険性があります。これらの労働者を保護するために、使用者は、墜落防止装置並びに適切な種類のはしご、足場及び安全装置を含む仕事に適した機器を提供しなければなりません。 作業を安全に行うために、適切な梯子や足場を使用すること。 屋根の作業では、作業員が個人用墜落防止装置（PFAS）を使用する場合、アンカーに接続する必要がある作業員それぞれにハーネスを用意します。PFAS のサイズが合っていることを確認し、安全に使用できるよう定期的に点検してください。
--	---

TRAIN everyone to use the equipment safely Every worker should be trained on proper set-up and safe use of equipment they use on the job. Employers must <u>train workers</u> in recognizing hazards on the job. <u>See educational materials and resources page for posters, factsheets, and other training materials.</u>	機器を安全に使用するために、全員を訓練する。 すべての労働者は、仕事で使用する機器の適切な設置及び安全な使用方法について訓練を受ける必要があります。使用者は、労働者が仕事上の危険を認識するための訓練を受けさせなければなりません。ポスター、ファクトシート、その他のトレーニング資料については、教材及び情報源のページをご覧ください。 <u>See educational materials and resources page for posters, factsheets, and other training materials.</u>
--	---